



第7回出光興産(株)中堅社員研修

宗 像



祝 悠仁親王殿下御誕生

10月祭事暦

秋季大祭(1~3日)

15日 月次祭

10:00 高宮祭
第二宮・第三宮祭
引き続き 宗像護国神社 巡拝
11:00 総社祭(豊栄舞奉奏)

17日 表千家献茶祭 11:00

9月1日(1日目)

- 12:30 全国各地から研修生が当大社に参集
- 12:45 開始奉告祭に参列後、研修日程に入る
- 13:00 神島宮司開講挨拶
- 13:15 沖人事部次長講話
- 14:00 出光担当者行程説明
- 14:30 白衣・白袴の着け方、潔斎けっさい
- 16:00 神社祭式作法(朝拝演習)
- 18:30 夕食
- 19:30 鎮魂
- 20:30 入浴・就寝



出光興産の中堅社員を対象とした第七回目の社員研修が、九月一〜三日当大社で開催された。

この宗像大社での研修から、千葉・平川寮までの十五日間に亘る一次研修(二次まで)がスタートするわけだが、今回は全国からの研修生三十六名に、出光本社沖宏伸人事部次長以下五名を加えた、過去最も多い計四十一名が参加した。

さらに今回は、人事部教育課より新卒の伊藤真理社員も参加し、初めて女性を交えての開催であった。

出光興産とその関連企業は社員数六五〇〇人を誇る大企業、再会するのは入社式以来、或いはほとんどが初対面という方々であった。

秋篠宮悠仁親王殿下御誕生の慶事に国民挙つて祝意を表す中、重陽の節も過ぎ、いよいよ秋本番を迎えた▼日本には何月何日という暦とともに、「立春」や「清明」「白露」といった美しい言葉で示される二十四節気という暦がある。一年の細やかな節目のために設けられ、立春から大寒までを暦の上で分けたものである▼四季に恵まれた我が国では節気によって、自然の再生循環と季節の移ろいを身体で感じ、自然との共生を暮しの源としてきた。節気間は約十五日、もともと中国の暦法で用いられ紀元前から続くものである。これが日本の暦法にも取り入れられ、持統天皇の時代から用いられた▼季節の変わり目を知る目安となることもなつて、様々な民俗・宗教行事の行われる日となった。秋ともなると各地で新穀の収穫を感謝し神威を蒙る稲米儀礼の新嘗祭が斎行される。暑さもおさまり秋を肌で感じ出すと、暦の上では「寒露」晩秋の頃となる▼四季の移り変わりに今よりずっと敏感であった昔の人々は、この二十四節気を生活の中に取り入れ約十五日ごとに「季節」を感じ、行事や仕事の区切りをつけていった。分単位で時間を切り刻む今日とはまた違った、確かな智恵や時の流れ、また自然に感謝する心が「二十四節気」には沢山詰まっているように思える。



神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番
本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)~4番
(075)343-3341番



木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567



研修生には、この二泊三日の研修期間を神社の境内で過ごしていただくため、まず白衣・白袴の着装・畳み方から研修に入った。

白衣を身に着けるのは結婚式以来との声も聞かれる中、恐らく最初で最後となるであろう白衣・白袴に戸惑いながらも何とか着装を終えた。

続いて各班毎に潔斎場へ移動し潔斎、再び白衣・白袴に着装すると、次は祭式作法と朝拝で奏上する「大祓詞」の講義、

朝拝演習と、当大社祭儀部の神職が総動員で神社祭式作法の基礎を約四時間に亘って指導した。

夕食後は、高宮齋場へ移動しての鎮魂。研修生も勤務先先輩から耳にしている様子であったが、この研修の山場である。

浄闇の参道を懐中電灯の灯りを頼りに、百八段の石段を進み玉砂利の敷かれた露天祭場に正座。まず一同で大祓詞を奏上した後、神職による「鎮

魂はじめ」の声で全ての灯りが消され、耳にするのは木々の葉音や虫の鳴き声のみの中、約三〇分間の鎮魂を行った。時間が経つにつれ、足のしびれから苦惱表情を浮かべる方もおり、「鎮魂やめ」の声で一同安堵の表情を浮かべられていたのが印象的であったが、経験された方ではかわいえないものを感じていただいたように思う。

その後、各班毎に順番で潔斎。初日の日程を終えた。



二日目はまず潔斎、境内清掃、朝拝がスムーズに行われ、朝食後神宝館を見学。建國を彩る宗像大神の歴史を、約八万点の国宝、二万点の重文とい

目にすることは難しいと思っていたが、幸運にもうつすらと拝すことができ、研修生一同感銘を受けた様子であった。

帰社後、夕食をとり、山元教

9月2日(2日目)

- 6:00 起床・洗面・潔斎
- 7:00 朝拝準備、境内清掃
- 7:30 朝拝
- 8:00 朝食
- 8:40 神宝館見学
- 9:50 記念撮影
- 10:00 宗像大社御由緒講義
- 12:00 昼食
- 13:30 筑前大島渡島
- 中津宮・沖津宮遥拝所・御嶽宮参拝
- 17:00 店主の理念を育んだ時代背景についての講義
- 18:40 夕食
- 19:30 鎮魂
- 20:30 入浴・就寝

う膨大な出土品を通して感じていただいた。

当大社御由緒の講演後、昼食をとり、午後からは白衣白袴をスーツに着替え大島へ渡島。中津宮・沖津宮遥拝所・御嶽宮を参拝した。

前日に雨が降ったこと、時期が夏であることから沖ノ島を



育課長による「店主と宗像大社について」と題した出光興産側の講義が行われ、鎮魂。二日目を終えた。



最終日は、潔斎、境内清掃後、研修終了奉告祭を行い、宗像

一行は、宗像市赤間にある店主墓参をし、福岡空港から千葉の平川寮へ向かい、そこで十一日間の研修に入るとのことであった。
二泊三日という短期間であったが、この宗像大社で過ごした時間が、研修生の日々の生活で、一人一人の長い目で見た今後の人生でお役に立つことを切に願ひ、研修生皆様の今後益々の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。

9月3日(3日目)

- 6:00 起床・洗面・潔斎
 - 7:00 朝拝準備・境内清掃
 - 7:30 朝拝(研修終了奉告祭)
 - 8:00 朝食・着替え
 - 9:30 出発
- 宗像市赤間の店主生家見学・店主墓参
福岡空港より
千葉・平川寮へ移動



平成十八年度
学芸員実習開催

当大社文化財管理事務局が、博物館学芸員過程を履修している大学生を対象に毎年実施している学芸員実習が、去る八月十六〜二十六日に開催され、県内外の女子学生六名が受講した。

実習生は毎朝、神社職員とともに朝拝式に参列し、心身を清らかにして講義に臨んだ。

初日の堤文化財管理事務局長による講話を皮切りに、考古学(松本肇氏による沖ノ島祭祀の講義)、民俗学(石井忠氏による漂着物ほかの講義、楠本



から文化財行政についてご指導頂き、行政が行う文化財保護への取り組みの一端にも触れた。
期間中、台風接近に伴い一日間実習が休講となり、カリキュラムを変更する事となったが、最終的に全

工程を無事に終了することができた。

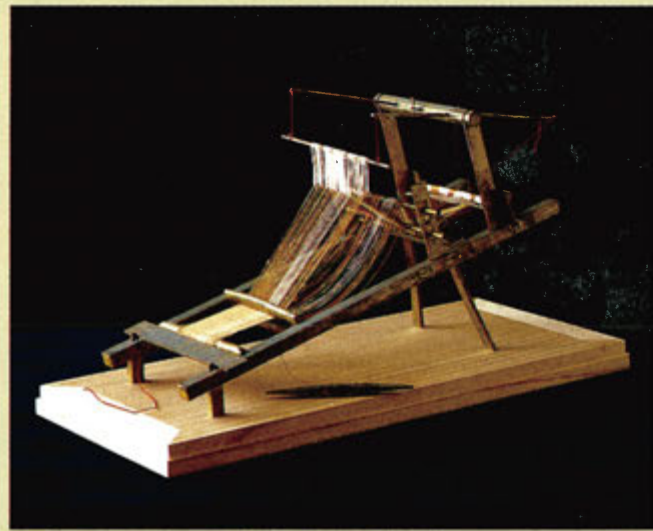
実習を終えた学生らは、当大社に残る貴重な文化財の意義や、文化財継承に対する現場の努力について理解を深め、充実感に満ちていた。

当大社の文化財の背景には篤い信仰がある。この新知見によつて、何事も無機的に捕らえがちな現代の若者は、モノの捕らえ方を見つめなおす契機を得たようである。本実習で習得したものを人生の飛躍につなげてもらえれば誠に幸いである。



秋季企画展
第2弾

「国宝一括指定記念」
沖ノ島祭祀と宗像・福津の文化財展



今年6月、沖ノ島祭祀遺跡出土品約8万点全てが、国宝指定となりました。これを記念して、新指定品のお披露目展を開催いたします。

当大社沖ノ島は、古代においても聖なる島として人々から崇められており、大和王権は当時の最高級品を捧げて大規模な祭祀を行ったことがわかっています。

本展覧会では、これらの奉献品のうち、新指定された沖ノ島祭祀遺跡出土品について、今までご紹介する機会の少なかった伝世品を中心にお披露目します。

これに併せて、宗像市・福津市から発見されている古代の考古資料も展示し、当時の宗像地域に生きた人々の様子を、沖ノ島との関わりという観点からご紹介いたします。またとない機会です。皆様、是非お越し下さい。

- 会期 平成18年10月28日(土)～11月26日(日)
- 時間 午前9時～午後4時半(入館は午後4時まで)
- 会場 宗像大社神宝館 全展示室
- 入館料 大人…500円 大学・高校生…300円
中・小学生…200円
※15名以上は100円引

※企画展開催に伴う展示・撤去作業のため、
会期の前後で休館いたします。
休館日 平成18年10月23日(月)～10月27日(金)
平成18年11月27日(月)～11月30日(木)

＜主な展示品＞
金銅製高機、土器類(野坂新田遺跡出土)、蛇行状鉄器(手光南2号墳出土)等、皇朝十二銭(三郎丸今井城遺跡出土) <上記写真参照>、金銅製香炉状製品、銅鏡、石釧などの沖ノ島出土とみられる伝世品、鉄鏝(割畑1号墳出土)等。

福岡サニックス・ブルース
必勝激励会



八月二十二日福岡サニックスブルースの必勝激励会が、玄海ロイヤルホテルで開催された。

激励会に先立つ午前六時、同ホテル清明殿で当大社神職二名、巫女二名の奉仕により祭典が執り行われ、(株)サニックス宗政伸一社長、藤井雄一郎監督、古賀龍二主将以下選手、マネージャー関係者が参列する中、今シーズンの必勝を祈願する祝詞が奏上され、各自厳粛に祈念の誠を捧げられた。

ポーターが詰めかけた。クラブチームの挨拶で始まり、エニージランド出身の選手より有名なハカシーン等も披露され、日頃応援する選手と接するまたとない機会となったサポーターは、会場各所で和やかに話が弾む光景がみられた。また、チームカラーを意味する「青魂」と大きく書かれた書額の贈呈も行われ、選手団も感謝の意を強く表していた。

続いて、ホテルのバンケットホールで、谷井市長ら「宗像市に本拠地を置くブルースを激励する会」主催の激励会が開催され、約二二〇名の地元サ

サポーターを代表し伊豆善也元県議、井上正史J.C理事長など熱烈な応援スピーチが数々と寄せられ、最後は小林栄二宗像大社氏子青年会々長より大学応援団長時代を彷彿とさせる、素晴らしいエールが贈られ盛大に必勝激励会は幕を閉じた。



九月九日には、博多の森陸上競技場でトップリーグでの初勝利を飾られたとの事、福岡サニックス・ブルースの御健闘をお祈り申し上げます。



第三十回 東西神社人親善野球大会兵庫大会

開催チームの兵庫県チームが優勝



去る八月十七日、十九日、第三十回となる東西神社人親善野球大会が兵庫県当番により開催された。東都以西の五チームが二十九年に亘り行ってきた伝統ある大会で、本年より太宰府天満宮・当宗像大社の混成チームが九州の地より初めて参加する事となった。

初参加に向け年明けより準備を進め、統一ユニフォームの制作、また五月頃よりは、月三回程のペースで合同練習・練習試合を重ね、八月十日に壮行会を行い大会へと臨んだ。

八月十七日兵庫県神戸市へと入り生田神社正式参拝、同生田神社会館において役員・選手懇親会並び抽選会が開催され、兵庫県より手厚いサンバの歓迎を受け、初参加となる当チームを代表し太宰府天満宮、西高辻宮司、当大社、神島宮司より初参加の熱い意気込みが語

られ、会は盛会且つ和やかな雰囲気の中お開きとなった。

翌十八日、午前七時半貸切バスにて淡路市・「ボールパークあわじ」へと移動し、全六チーム揃っての記念撮影の後開会式が行われた。淡路市長の歓迎挨拶後、昨年優勝の出雲・金刀比羅チームより優勝旗・統理杯が返還され、いよいよ試合開始となった。

当チームは前夜のくじ引きで一回戦シード権を得て、東京チームに勝利した出雲・金刀比羅チームとの二回戦から参戦。満を持して臨み、主戦神島(宗像)の投打に亘る活躍で七対〇の五回コールドで初戦突破を果たした。

続いての決勝戦では、開催県として意気込みの強い兵庫チームと対戦。当チームは大塚・長友の宗像バッテリーの先発であったが、序盤このバッテリーにミスが連発、三失点を許してしまう。打線もチャンスでの一本が中々出ず、中盤で

一点を返すのが精一杯、結局一対三で最終回を迎えた。

最終回のトップバッター代打伊藤(宗像)のライトオーバーの二塁打でチャンスを作るもやはりあと一本が出ず惜敗、初参加を準優勝で飾った。

閉会式では、次期開催地代表挨拶として当大社神島宮司よ

り、「初開催となる福岡の地で、皆様のお越しを心待ちにしております」との挨拶がなされ、大会は終了した。



(続)

浜の奇物

208

いいただし



今年夏、新潟県・柏崎市立博物館で「渚モノガタリ」(漂着物からみた越後・佐渡)の企画展があり、見学してきた。最近の日本海の漂着物から、過去の漂着物までこまかに探り展示されていた。展示方法は分かりやすく、よく整理分類されていた。七月三十日にはピーチコーミングも行われた。展示の目玉は、文政八年(一八二五)、新潟・柏崎椎谷の漁人が沖で、漂流中の流木を見つけた。薪にしようと拾って、家の軒下に置いていたところ、通りかかった好事家が見て驚いた。流

木の上部は人面で、どんぐり眼・いかめしい鼻・部厚い唇とおどろおどしい。その下の文字に唸った「娥眉山下齋」と刻されている。娥眉山(四川省)とは、中国仏教の三大霊地の一つである。そこに架っていた橋柱なのか、「あんな遠くから流れてきたのか」これが大いに話題となった。隣村の田沢村祐光寺の僧観励上人は五大文字の輪郭を写し、版を作つて、同好の土に配布、この時に「橋柱に題する吟詠」を依頼した。良寛は「娥眉山下の橋杭に題す」として、知らず 落成何れの年代ぞ書法

の年代ぞ書法 適美にして且 つ清新 分明 なり 娥眉山 下の橋流れ 寄る日本宮川 の濱との詩を 詠んだ。最近の研究では、この橋柱は、娥眉



の年代ぞ書法 適美にして且 つ清新 分明 なり 娥眉山 下の橋流れ 寄る日本宮川 の濱との詩を 詠んだ。最近の研究では、この橋柱は、娥眉

『むなかたさま』 発行の御案内

宗像信仰の教科書ともいべき本として、昭和62年に発行され、長らく絶版となっておりました『むなかたさま』が、この度再版され、秋季大祭初日の10月1日より各社頭で頒布されます。

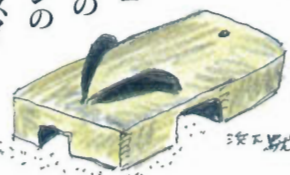
神社史のような学術書ではなく、やさしい文章で書かれ、内容に沿って写真も盛り込まれた、気軽に読んでいただける仕上がりとなっており、宗像大神を崇敬される多くの皆様の新しい解説書になると思われま



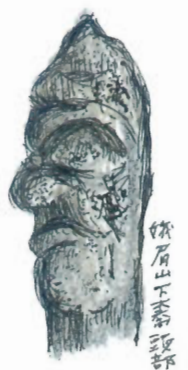
開始日時 10月1日～
場所 本殿・祈願殿授与所、神宝館
頒布価格 1,500円
サイズ A5版
ページ数 184ページ

山から流れてきたものでなく、朝鮮のチャンスン(長柱)ではないかというのである。チャンスンを研究している朝鮮の学者の説も紹介されている。朝鮮には村々の入口に、魔除けや悪霊除けの「天下大將軍」「地下女將軍」が建てられているが、その類ではないかと言う。他に展示は柏崎に漂着した奇物、漂流物、海中出現仏、

海揚りの珠州焼の甕、柏崎裏浜に漂着した石器類。地元陶山修氏のコレクシヨンの数々のうち、韓国から北朝鮮へむけて流された海漂器、妖しげな男女の彫刻なども。上越市の上下浜小学校の「クジラの学校」の版画や、当時の鯨の骨等から、漂着貝だけを一途に集めた小林進一氏のコレクシヨン、ウキツノガイが光つてみえた。扇山ヨシコ、和博親子の翡翠コレクシヨンの二〇kgの大物ヒスイ



に驚いた。帰りに同行の愛知・林重雄氏と糸魚川や姫川の海岸を歩いてヒスイさがしとなった。結果は「一日してヒスイは拾えず」。ピーチコーミングは、新潟、富山だけに使われていた浜下駄をはいて探した。なんとも贅沢な浜歩きだった。もりだくさんの、しかも漂着物の楽しみ方も追求した好企画だった。渡邊三四一 学芸員ごころうさんでした。



第36回 西日本菊花大会のご案内

神郡宗像に菊の季節が到来しました。九州各県を中心に、全国の菊花愛好家が丹精込めて作り上げた銘花約3000鉢が、境内中に展示されます。この大会の最高賞は内閣総理大臣賞、この他に大臣賞が十一本授与され、別名「菊作り九州ナンバーワン決戦大会」とも呼ばれています。

期間中は、観菊者、七五三詣での家族連れなどで賑います。また菊苗・菊鉢の販売、勅使館をこの時期限定で特別に開放「抹茶コーナー」、豪華景品が当たる『菊みくじ』、宗像観光協会の運営する『いっぷく茶屋』なども開かれています。

是非、御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

期 間 11月1日(水)~11月23日(木)
時 間 終日
会 場 宗像大社境内
表彰式 11月19日 午前10時~
 於=アクシス玄海
拝観料 無料
駐車場 無料



① 観光協会案内所



② 菊みくじ



③ 懸崖



④ 玄海小生徒作品



⑤ 古木添木



⑥ 小品盆栽



⑦ 千輪咲き



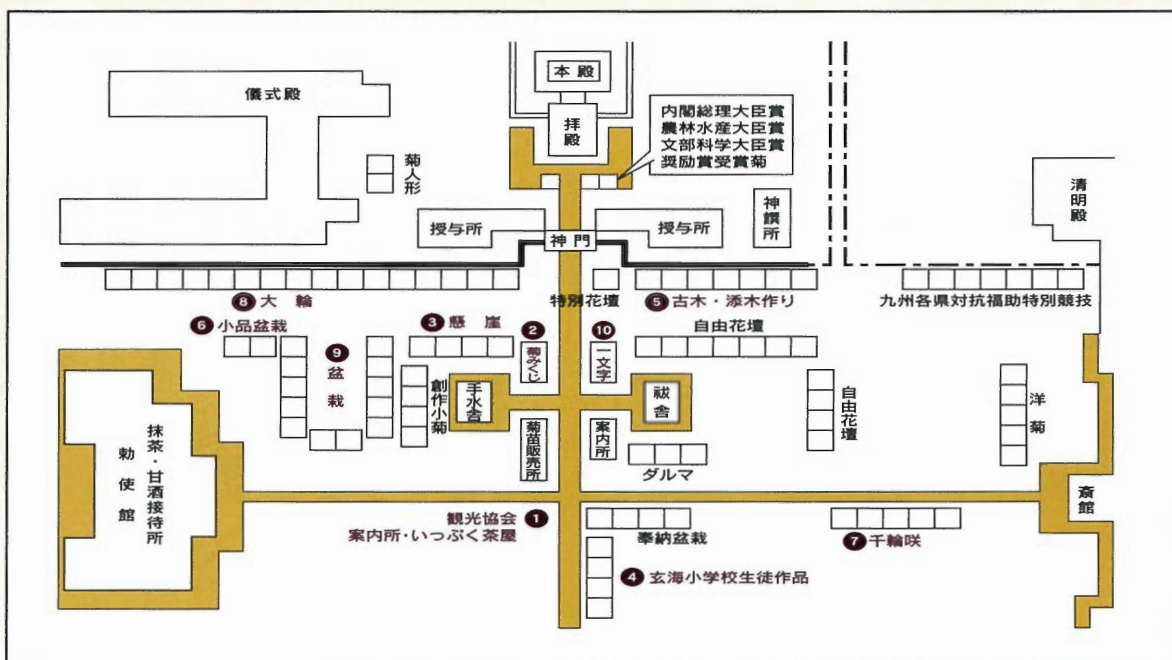
⑧ 大輪



⑨ 盆栽



⑩ 一字



第五四二回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット

福津市 若木台 野間 精一

立山の高山植物を撮りて来し友の土産の蛸烏賊は甘し

高山植物と蛸烏賊の意外な取合せの面白味を出すには、「土産は蛸烏賊なり」と突き放した方がいいと思う。

うきは市 浮羽町 向 則正

四歳児の雨降り出せば長靴をおろして庭にスキップをせり

雨に遊ぶ幼児のさまを写すには初句の「の」は不要。結句も「せり」の過去形でなく「する」の現在形がいい。

福津市 中央 池浦 千鶴子

若さらに混じりて歩く昼下がりとまれば汗のしたたるばかり

このままでいいが、結句は「したたりやまず」の方が炎暑の感じが出る。

宗像市 鐘崎 安永 久子

こだわれど吾が手にあまる庭の樹々亡き夫に詫び再度伐りたり

庭木を愛した夫への思いのようだが、判りづらい。二句を「繁りにしげる」なら判る。歌は単純化が大切。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子

日焼け止めたつぶりつけて町へ出る台風無事に過ぎたる今日は

女性らしさのある歌。このままでいいが、結句は「昨日過ぎたり」の方が、台風の規模と作者のかけあいが出ると思う。

宗像市 田久 巻 桔梗

クマゼミのこゑ降る宮に禰宜の読む夏越の祝詞りと徹れり

骨格のしっかりとした一首だが、結句「りと徹れり」はいかにも短歌的表現、ここを工夫して欲しい。

福岡市 南区 井田 有久衣

来世も又夫婦にと言いし夫の遺影の前に匂う百合

作者の夫恋いの気持は判るが、遺影と花の組合せは沢山詠まれていることも承知して下さい。

福津市 星ヶ丘 佐々木 和彦

ふるさとの空気を吸ひて歩く身にささやくとし海近き川

うまい歌、だが「歩く身に」の身に気になる。私なら二句三句は「空気と思ふ朝明けを」とする方がいいがどうだろうか。

宗像市 大井 木原 ふさ子

穏やかに夕づく湖面光りてあめんぼうの面く波紋のつつく

事実そのままを詠ったのだろうが「湖面」より「池の面」の方がふさわしい。短歌は言葉の組合せが大切。

福津市 在自 増田 武光

乳飲み子を野良に抱きて母親は奉納絵馬の中にはほほえむ

掲げられた絵馬を見ての作品と思うが、二、三句は「抱く母親野良に立ち」の方が歌意ははつきりする。

福津市 光陽台 香月 照子

せせらぎの川面に浮かべし笹舟は追いつ追われつ流れゆくなり

木原作品と同じく「川面」より「流れ」としたい。

宗像市 日の里 大和 美由紀

親類の集ひし夜の盆座敷今年生まれの子ども加わる

「子ども」とすれば四、五歳以上の感じである。「みどり児」がふさわしい。

宗像市 大島 杉田 禮子

大潮のべた屈の今日鱈網も中休みとふ人影もなく

月夜間の休漁のことだろう。「鱈網のもの」は他にもあると欲張りの助詞と呼ばれている。こはほと鱈網に焦点をぼけらした。また結句もなくの連用形でなく「な」と終止形止めがいい。

宗像市 池田 森 龍子

八月の思ひ出の一つ盗み見せし祖父の抽出しの軍事郵便

いい歌、ただ軍事郵便は誰が出したのか、それが判ると嬉しいのだが、惜しい。

福津市 中央 中村 勇

境内の石の雄牛は逞しく人の撫でたる角が光れり

対象を良く見て詠われていて力強い一首である。

宗像市 ひかりヶ丘 清水 亜矢子

夏空に光る無数の輝きは心を照らしはかなくちりゆく

「心を照らす」は一步誤ると道歌となる恐れがある。「私をとする、私の中には心もふくまれてるし、現実的で若さがある。

宗像市 田野 森 甲子

梅雨明けの湯川の山は黒ぐると木々の息吹きわれに迫りく

盛んなる木々の生命力と作者の氣息が合致し生まれた一首である。

選者 詠 野母半島岬の下にひしめきて光採み合ふ十月の海

洋ななかは洋ななかゆゑの風あれて端島西端白波あがる 超精くなりしすがたに岬山の草に纏れる精霊はった



第五一七回 俳句作品集

福津市 在自 増田 武光

狛犬も舌を出したる炎暑かな

福岡市 馬出 箱島 文衛

楢大樹千木と並びて露涼し

宗像市東郷宗風社俳句会 吉田 杏子

夕立によける軒なく車庫を貸る

三浦美千代

君逝きぬ手紙の束をもやす秋

田中 雨葉

揚桃や記憶の母は機を織る

木原 房子

七夕や文字とりどりに子らの夢

編集後記 ついに歩き始めました。

以前からメタボリック症候群というのは自覚していましたが、東西神社人野球に伴う練習時に事件は起こりました。アンダーシャツを着替える際に「意外と着痩せするタイプなんだね」の一言。心に響きました。六月から田んぼ道を毎日約四キロ、四十分かけて歩いています。仕事も家庭もあり時間を捻出するのは困難ですが、始めれば意外と楽しいものです。今ではあまり痩せようと思わず、今更なことと、将来のこと、いろいろ考える時間になつています。何より、今日歩けたことに感謝し、明日も歩けばいいなと思える自分が驚いています。結果は微妙ですが、伴ってきまして、また御報告しようと思えます。(M.O)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 伊藤佳和
編集人 大塚宗延
制作 セネラルアサヒ
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円